



嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて紹介して行くコーナーです。今回はこの方にお話をうかがいました。



KENJI INOUE, 718 CES

第718施設中隊 資産管理部 環境資源課

いのうえ けんじ

危険廃棄物取扱者 **井上 健二さん**



Q1. あなたの職種と仕事内容をお聞かせ下さい。

私の部署は、嘉手納基地から出る危険廃棄物を取り扱っています。基地内に100箇所ある廃棄物集積場から持ち込まれた危険廃棄物を、米国防省財産処理事務所 Defense Reutilization Marketing Office(DRMO)に送り出す際に必要な廃棄物の分析データや返却書類を作成しDRMOに送る手続きをしています。そして、この部署は嘉手納基地から出る廃棄物を基地外へ出す際に通る唯一かつ最終ポイントとしての役割を果たしています。

基地から出る危険廃棄物といっても色々ありますが、使用済みの電池や蛍光灯から航空機を整備した際に出る油など幅広いです。この航空機を整備したあとに出る危険廃棄物がこの部署に持ち込まれる廃棄物の80%を占めています。また、廃棄物として持ち込まれても、まだ使えるものは倉庫に保管しリサイクル利用をしています。たとえば、パーペキュウをするときに使う点火剤なども保管されていて、必要な人がいれば無償でお渡しします。

毎月1度危険物を取り扱っている日本人従業員に対し、日本語で危険物取り扱いに関するトレーニングも行っています。

Q2. 職場のスタッフ構成は？

メインオフィスに米国人従業員がありますが、この事務所には私を含め2人の日本人従業員がいます。

Q3. この職場に勤めてどのくらいですか？

2001年から働き始めて、今年で10年目です。

Q4. どういう点に仕事のやりがいがありますか？

基地から出る危険廃棄物を処理するにあたり、日米両国の廃棄物に関する規則を遵守する必要があります。この規則に基づいて廃棄物の適切な処理をすることによって、環境に負荷を掛けないということが使命です。目的は適切に処理をすること、強いては環境の為であるということ、在日米軍で仕事をしていて土壌汚染があると沖縄の土地を汚すようなものなので沖縄の環境を守るためにやっていることにやりがいを感じています。



Q5. この仕事の大変さについて。

日米両政府の廃棄物に関する規則に沿って仕事をしていかなければなりません、この規則はほぼ毎年変更が出てくるので、それに対応していくことが求められます。基地内では米側の規則に沿って仕事を進めますが、廃棄物の最終処分場は日本本土にあるので日本の規則に沿うようにやっていかなければなりません。基準や基準値が異なるので、そのつど確認をしながら仕事を進めなければなりません。

また、日米両政府の取り決め、JEGS(Japan Environmental Governing Standards) 日本環境管理基準という在日米軍の日本における環境関連の規定や規則を守るための指針文書があります。これは2年毎に改定され2010年版が最新のものです。最新版に沿って準拠していくなどが大変なところです。

Q6. アメリカ人と働く環境での一番の課題は何ですか？

事務所には私を含め日本人が2人なので常に直接的に一緒に働いている米国人はいませんが、こちらに危険廃棄物を搬入してくる米国人の方々が相手です。これだけは言っておきたいのですが、こちらに来る米国人は皆さんともいい人たちです。これだけはとてもよきこと、彼らはとても協力的で軍人としてルールに従うことになれているので危険廃棄物に関する規則を守ってくれますし、規則や基準の変更に関してより新しい情報を得ようと努めてくれます。

Q7. 軍の仕事で一番驚いたことは？

この仕事に関して言えば、例えば燃料漏れ等があった場合、物質的、質的、量的において充実していて、迅速な対応が出来るということです。事故があった場合には、人が行くのも早いし処理するために十分な機材や資材を持っていくことを組織的に迅速にかつ適切にできる高い対応能力を持っています。さらに機材に関して言えば、有機微生物を使って処理ができるような非常に安全で適切な最新の技術で対応しているところなどです。

Q8. 同じような職種に就こうと考えている方へのアドバイスは？

危険物取り扱いや有機溶剤取り扱いの資格等を持っているに越したことはないですが、当たり前のことですが仕事に関わることにに関して、日米両政府の危険廃棄物の規則など日々勉強することです。私を採用した上司から面接のときに最初に言われたのはカスタマーサービスをきちんとして欲しいということでした。それが今でも私の中に強が残っていますので、カスタマーサービスナンバー1のプライオリティー、私のポリシーです。危険物を取り扱うからということではなく、廃棄物を持ってくるお客さんも"人"、受け取る私たちも"人"です。一番大切なのは人と人の繋がりだと思います。

追記：井上さんはボランティア活動にも積極的に関わっており、沖縄マラソンや嘉手納スペシャルオリンピックの第1回目から毎年ボランティアをされているそうです。また子供の日には、美里児童園の子供たちを基地内ポウリングに招待したり、クリスマスにはプレゼントを持って園を訪問するなど地域活動も活発にされています。多趣味な井上さんは陶芸、生け花、木工等もされており、事務所の中には井上さん自身が作成された焼き物のカップや棚、素敵な生け花が飾られていました。



嘉手納弾薬庫での清明祭（シーミー）

第18航空団広報局



嘉手納基地には古墓、古井戸、元集落拝所など総称して文化遺産が数多く残っています。嘉手納基地側には実際に使用されている墓はありません。しかし、嘉手納基地の北側にある嘉手納弾薬庫地域には、現在でも地元の方々の墓があり、4月に入ると（旧暦3月）お墓に参拝する清明祭(シーミー)が行われます。

4月10日日曜日、読谷村喜名区より50家族（およそ343名）の方々が、事前に嘉手納弾薬庫へ立入申請をし、清明祭が行われました。当日は第18弾薬中隊の職員（軍人17名 民間人1名）がエスコートボランティアとして、その50家族をグループに分かれて案内しました。同中隊のボランティアは、同日、弾薬庫内のおよそ30ヶ所のお墓へ地元の方々を案内しました。その翌週4月17日(日)には、読谷村牧原区と嘉手納町より、4家族（およそ60名）の方々が訪れ、中隊ボランティア(民間人3名)によって案内され、6カ所のお墓で清明祭が行われました。嘉手納弾薬庫には200年以上も前から存在するお墓もあり、地元の方々は伝統ある行事を受け継いで参拝を行っています。

(写真提供：第18弾薬中隊)



「沖縄市学びの旅と女性の翼の会」会員、嘉手納基地を視察

第18航空団広報局



2011年4月1日、「沖縄市学びの旅と女性の翼の会」の会員33名が嘉手納基地を視察しました。同会は男女共同参画の意識向上、女性指導者育成等活動をされています。県内でも定期的にいろいろな施設を訪れ社会参加意識の高い本会員の訪問を受け入れたことは、嘉手納基地の活動紹介を広める好機となりました。

嘉手納基地では第18航空団という主力部隊とパートナー部隊が駐留し、訓練、任務遂行に励んでいます。同時に嘉手納基地は空軍のみならず海軍、陸軍、海兵隊あるいは軍属その家族が住む生活の場でもあります。保育園、小学校（4校）、中学校（2校）、高校（1校）があり、どこの町にも見受けられる家族の営みがあります。

今回、女性翼の会の皆様を、嘉手納基地内の家族支援を行っているカデナファミリーサポートセンター(Airmen & Family Readiness Center)へご案内しました。センター所長のシャーリー・ブレイントン女史、補佐役のヒロコ・ブツシュ女史のお二人からセンターが提供する活動の詳細な説明がありました。就職するときの履歴書の書き方、就職相談、また軍人と結婚した外国人国籍の奥様方（日本、韓国、その他）を対象とした米国の文化、慣習、銀行や金融システムの知識など生活するうえで大切なことなどについて講座があることなど、センターの職務について説明を受けました。また同施設では日本語、日本文化（踊り、サンシン、着付けなど）を教える講座や同好会もあり、ブレイントン所長が「ボランティアを募集しています！」とお願いしたところ、参加者から好意的な反応がありました。

その後基地内をバスで視察し、昼食が将校クラブで行われ、嘉手納基地部隊の女性将校が加わり、各テーブルでは自己紹介や意見交換で賑わいました。参加したのは第18医療群司令官のバーバラ・キング大佐、第18任務支援群副司令官リサ・レディンジャー中佐、第718施設中隊アン・バーシャード中佐です。それぞれ数百人から数千人の軍人、地元従業員を抱える部隊の責任者で、沖縄に住んでの印象や仕事のこと、家族のこと「女性翼の会」会員の皆さんが矢継ぎ早に質問していました。米側参加者も日本の子供たちの教育のことや、産前産後休暇期間など質問し、米国との違いに驚いているようでした。文化や慣習に相違点はあれど仕事、家庭、ボランティア等日々活動的に生きている日米の女性たちのパワーを感じたひと時となりました。